

YAMA_HE_SAMMPO_IKOU

さんぽき
かみきた山歩記 -005

東ノ川周辺

(木組峠 1195m)



出口橋北詰の尾根から台高山脈稜線にあがる手前。東ノ川方面の展望が開ける。写真右上に見えるギザギザした稜線の一番高いところが、荒谷山

ノ川、河合・小椋のルート。の集

探さしほぼ解明できているので、残りは木組峠から東

までのルートは、家崎氏が

にした。便ノ山から木組峠

にいた。便ノ山から木組峠

てみたら面白そうだ...と思

い、ルート探索をすることに

した。便ノ山から木組峠

までのルートは、家崎氏が

探さしほぼ解明できている

ので、残りは木組峠から東

ノ川、河合・小椋のルート。

戻っていたと...。なんと

まあ、すごい体力・脚力で

ある。100年ほど前、東

ノ川の集落の人たちや尾

鷲・海山の人たちが歩いて

いたのであろう生活道。今

はほとんど、いや全くと

言っていないほど歩かれるこ

とのない道はいったいどう

なっているだろうか?その

道を使って、海山まで歩い

てみたら面白そうだ...と思

い、ルート探索をすることに

した。便ノ山から木組峠

までのルートは、家崎氏が

探さしほぼ解明できている

ので、残りは木組峠から東

ノ川、河合・小椋のルート。

重県紀北町にある

「海山郷土資料館」

の主事をされている家崎氏

から、とても興味深いお話

を聞いた。明治末から昭和

にかけてのころ、海山から

上北山までの山越えの道で

天秤棒を担いで行商してい

た人がいるとのこと。米や

酒・酢・干物・砂糖など総

重量18貫(675キロ)に

もなる荷物を担ぎ、朝早く

紀北町便ノ山を出発。木津

水呑峠、木組峠、荒谷峠

を越え、4時間ほどで小椋

に到着していたそうであ

る。次回の注文を取り、明

るうちには便ノ山まで

戻っていたと...。なんと

まあ、すごい体力・脚力で

ある。100年ほど前、東

ノ川の集落の人たちや尾

鷲・海山の人たちが歩いて

いたのであろう生活道。今

はほとんど、いや全くと

言っていないほど歩かれるこ

とのない道はいったいどう

なっているだろうか?その

道を使って、海山まで歩い

てみたら面白そうだ...と思

い、ルート探索をすることに

した。便ノ山から木組峠

までのルートは、家崎氏が

探さしほぼ解明できている

ので、残りは木組峠から東

ノ川、河合・小椋のルート。



1



2



3



4



5



6

1: 村道出合・大台線のどんつき。ここから先は崩れていて車では進めない。つり橋を渡り、東ノ川をさらに奥へ進む

2: 薬師平には集落跡が残っている。朽ちたお堂もある

3: 木組谷をひたすらに詰めていく。奥に見えているのが台高の稜線

4: 台高稜線と合流。ここからは尾鷲道で北上

5: 台高の雰囲気満載の稜線歩きを楽しめる

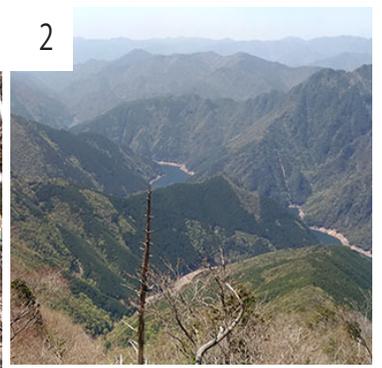
6: 尾鷲道は踏み跡がしっかりついている



竜辻山から尾鷲方面の展望

落らしく拓けた場所があり、石垣が残っていた。再び木組谷まで戻り、古道を探索しつつ谷を詰めていくことにした。大岩がゴロゴロとした涸れ沢をひたすらに登る。木組集落跡を探すつもりだったが、結局見つけれないまま高度を稼いでしまった。適当なところで、涸れ沢から尾根へ上がり少し進むと、ブナが多くなり台高稜線らしくなってきたと思ったら、木組峠に到達した。木組谷出合から約2時間下りは、木組集落跡まで続いている生活古道を利用しようと思ったが、踏み跡はほとんど消えており不明瞭だったので、コンパスを木組谷出合に合わせて適当に下る。1時間半ほどでスタート地点に戻ってきた。

探索2日目。前回車を停めた大崩落地点より少し手前にある出口橋付近に車を停める。橋の北詰の細又右岸側にモノレールが延びており、終点まで上がった後、台高稜線まで延びる尾根沿いに歩く。モノレールは、現在全く利用されていないらしく、アシビやシダがもりもりと伸び放題。背よりも高いブッシュをかき分け、必死で登ること2時間弱、展望が開けた。又剣山やギザギザした稜線の荒谷山が見え、その奥には、弥山・八経ヶ岳など奥駈道稜線。台高稜線に合流したら、中の嶺・委細谷ノ頭・竜辻山を経て出口峠まで。出口峠からは、地形図に破線で書かれている登山道を使い出口橋まで下山。このルートは、出口から尾鷲方面へ抜ける生活古道。ところどころ石置や石垣が残っている。ただ、途中踏み跡が不明瞭になっている箇所もあるので、何度か道を外してしまった。台高稜線から2時間半でスタート地点に戻ってきた。



3 1
4 2

- 1: 敷に埋もれた出口橋付近から延びるモノレール。今まで歩いた上北のモノレール沿いで一番敷に苦しめられた箇所かもしれない...
- 2: 台高稜線・中の嶺手前から東ノ川方面を眺める
- 3: 上北の林業が盛んだったころ、山から切り出した材木は索道で尾鷲方面へ運ばれていた。山の中には、遺跡があちこちに残っている
- 4: 河合～荒谷郵便道～出口峠をつなぐ生活古道。尾鷲まで続いている石置や石の階段が残っており、人がたくさん通行していた頃の姿を彷彿とさせる

*4/16 歩行距離約 10 キロ・歩行時間 (休憩含む) 5 時間 4/20 約 10 キロ・歩行時間 (休憩含む) 6 時間 10 分

【編集後記】

山を歩いていると、とんでもない山奥にもかかわらず、何故か石垣があったり、急に拓けたところがあったり…。不思議に思っていました、かつて山と共に人が暮らしていた頃、あちこちに集落があったと知りました。生活古道を紐解くことは、上北山村や周辺のいわゆる「北山郷」と呼ばれる地域の歴史文化を知ることにつながるといえます。現在の国道だけでは、なかなか理解できない人と物の流れ。歩かれなくなって長い月日が経った生活古道は、次第に朽ちていき山と一体化しようとしています、まだろうじて歩けそうです。完全になくなってしまいう前に、あちこち探索しなくては！

行政便り 上北山村通信「山へ散歩いこう」
発行 地域おこし協力隊 小谷雅美
発行 偶数月第二水曜日
連絡先 090-2064-4971

*小谷雅美協力隊員の山行記録は、ブログでも読めます「山へ散歩いこう」で検索してみてください☆